

清水誠治，斉藤裕輔，田中信治，津田純郎（著）

腸疾患診療

プロセスとノウハウ

多田正大

（多田消化器クリニック）

腸疾患の種類は多いが、腫瘍の診断と治療については比較的単純である。良悪性を鑑別し、次いで内視鏡で処置できるか否かを判断すればよい。内視鏡治療が不適切と判断すれば外科手術に委ねるので手順としては単純明快である。問題は炎症性疾患で、種類が多く症状も多彩であり、内視鏡所見も病期によって変化するので臨床医を悩ませる。腸管の炎症が疑われるケースに遭遇すると、まるで推理小説の謎解きである。画像診断だけで直感的に診断が下せないこともあり、系統的に、論理的に思考を組み立てなければ解決できない。

さらに、腸炎の治療も難解なことが多い。補液しておくだけで自然治癒が期待できる疾患もあれば、難治性で医者泣かせのIBDも少なくない。腸疾患を取り扱う場合、日頃から診療過程を論理的にまとめるトレーニングを積み重ねておく必要がある。

医学書院から刊行された『腸疾患診療—プロセスとノウハウ』を

手にした最初の印象……，膨大な大腸疾患診療のポイントを実に要領よく記述しており感嘆させられた。症状の解析から始まる診療過程，謎解きのポイントは第Ⅰ章に明快かつ詳細に記述されている。研修医にとっても理解しやすい診断手順であるし，ベテラン臨床医も落とし穴に入らないための指針を学ぶことができる。この章を読むだけでも有益であると称賛したい。

この書籍を編集する清水誠治，斉藤裕輔，田中信治，津田純郎先生は，わが国の大腸疾患診療の第一線で活躍する秀逸の指導者であり，特に第Ⅱ章では得意な最新の画像診断学を展開している。さらに第Ⅲ章には，各論として代表的な疾患のポイントが網羅されている。各パートを分担する執筆者達も惜しむところなく貴重な経験と症例を提供し記述しており共感を覚える。画像も超一流で，『胃と腸』誌に掲載されても通用するようなベストショットが惜しみなく提示されている。

本書は，腸疾患を取り扱うポイントを要領よく勉強するための待望久しい名著であるから，本書を読まずして腸疾患診療を語ることにはできない。これだけの内容の書籍をまとめるために，編集者や執筆者達の苦労が偲ばれ，その努力に敬意を顕わしたい。「腸学」の王道を学ぶための基本を教えてくれる大切な書籍であるので，研修医からベテランまで，多くの臨床医に本書が読まれることを期待したい。臨床医の必読の書籍であると本書を強く推奨したい。

普段から敬愛している編者達に対して，褒めるばかりの書評では親切ではない。辛口の私からの要望をぜひとも付記しておきたい。腸疾患の診療には形態診断が不可欠であることは認めるが，偏りなく機能性疾患についての項も設けてほしかった。複雑な現代社会にあって，実際の臨床現場では過敏性腸症候群として屑簣的に取り扱われている心身症的背景のある患者は少なくない。この点は画像診断に重きを置く『胃と腸』誌が陥っている隘路と同じである。これさえ克服できれば，本書は真の「腸疾患の百科辞典」としての評価が得られる……期待を込めて本書の書評としたい。

●B5/頁 448/2007 年/定価 15,750 円（本体 15,000 円+税 5%）
[ISBN978-4-260-00146-5]
医学書院 刊